

参考文献

秋本吉徳

「枕詞」攷（一）―地名「ヤマト」にかかるものを中心に―（「清泉女子大学紀要」二七 昭和五四年二月）

阿蘇瑞枝

「枕詞の技法」（『萬葉』一三四 平成元年十二月）

阿蘇瑞枝

「固有名詞にかかる枕詞―記紀歌謡と東歌―」（『松田好大先生
追悼論文集』 万葉学論攷』平成二年 続群書類従完成会）

阿蘇瑞枝

「枕詞と地名」（『東アジアの古代文化』六四 平成二年七月）

阿蘇瑞枝

「歌の技法―枕詞と序詞―」（『上代文学』六五 平成二年十一月）

阿蘇瑞枝

「序詞・枕詞・対句」（『万葉集Ⅰ 和歌文学講座 2』平成四年 勉誠社）

阿蘇瑞枝

「固有名詞にかかる枕詞―人麻呂を中心に―」（『吉本生子博士
追悼記念論集』 上代文学の諸相』平成五年 塙書房）

阿蘇瑞枝

「用言に冠する枕詞を考える―記紀・風土記を中心に―」（『國文目白』第三十三号 平成六年一月）

阿蘇瑞枝

「山上憶良の枕詞」（『論集上代文学』二二 平成一〇 笠間書院）

阿蘇瑞枝

「大伴家持にとつての枕詞」（『国語と国文学』平成一〇年七月号）

阿部萬蔵・阿部猛編『枕詞辞典』昭和六三年 高科書店

荒井健・興膳宏『中国文明選 第十三卷 文学論集』昭和四七年 朝日新聞社

生田耕一 「『枕詞』といふ名称の初見」 (『国語国文の研究』二八 昭和四年一月)

生田耕一 「枕詞研究史の第一頁」 (『国語国文の研究』二九 昭和四年二月)

生田耕一 「枕詞研究史の第一頁(二)」 (『国語国文の研究』三一 昭和四年四月)

生田耕一 「枕詞研究史上に於ける『釣舟』の位置」 (『国語国文の研究』四三 昭和五年四月)

泉井久之助 「東と西―ホメーロスの『枕詞』」 (『国語・国文』昭和二三年八月)

市村 平 「短歌に見えた枕詞と序詞との研究(一)(二)」 (『国語と国文学』昭和三年六月・七月)

井手 至 「ツノサハフ・シナテル・シナタツ―枕詞の解釈をめぐって―」 (『萬葉』三三九 昭和三六年五月)

井手 至 「萬葉集文学語の性格」 (『萬葉集研究』四 昭和五〇年 塙書房)

井手 至 「日本語の語源―古代語の語源研究をめぐって―」 (『日本語講座第六卷 日本語の歴史』昭和

五二年 大修館書店)

井手 至 「枕詞―序詞との関連において―」 (『国語国文』昭和五二年五月)

井手 至 「語源研究のために」 (『言語』昭和五三年一月)

伊藤 博 「萬葉集の構造と成立上」 昭和四九年 塙書房

伊藤 博 「萬葉集の表現と方法下」 昭和五一年 塙書房

伊藤 博 『萬葉集の歌群と配列下』平成四年 塙書房

伊東光浩 「万葉集一六七番歌日並皇子殯宮挽歌に於ける『世者』訓読についての試論」(「中央大学国文」第二十六号 昭和五八年三月)

稲岡耕二 「人麻呂の枕詞について」(『萬葉集研究一』 昭和四七年 塙書房)

稲岡耕二 『万葉集の作品と方法』昭和六〇年 岩波書店

稲岡耕二 「人麻呂歌集歌と卷十一・卷十二出典不明歌の位相―枕詞史のために―」(『論集上代文学八』昭和五二年 笠間書院)

稲岡耕二 「人麻呂歌集略体歌の方法(二)―枕詞による嘆きの形象―」(『萬葉集研究七』昭和五三年 塙書房)

乾 善彦 「『山下風』小考」(『萬葉』一五六 平成八年一月)

犬養 孝 『笠金村』(第四 作風と人、一〇 丈夫 皇威 神龜天平の人)昭和一九年 青梧堂

岩下武彦 「人麻呂歌集古体歌における枕詞表記の意義」(『萬葉集研究 一八』平成元年 塙書房)

岩下武彦 「人麻呂の枕詞試論―人麻呂歌集古体歌の枕詞表記をめぐって―」(『稲岡耕二先生還暦記念 日本上代文学論集』平成二年 塙書房)

岩下武彦 「人麻呂の枕詞と文脈」(「中央大学文学部紀要」一六一号)

- 上田秋成 『冠辞考続貂』寛政八年序、享和元年刊（『上田秋成全集 六』平成三年 中央公論社）
- 上田設夫 『万葉序詞の研究』昭和五八年 桜楓社
- 内田順子 「古今集の序詞」（『ことばとことのは』第四集 昭和六二年一月 和泉書院）
- 内田賢徳 『萬葉の知』平成四年 塙書房
- 内田賢徳 「短歌・長歌の成立」（『岩波講座 日本文学史第1巻 文学の誕生より八世紀まで』平成七年 岩波書店）
- 内田賢徳 「新撰字鏡倭訓小考」（『国語語彙史の研究 十六』和泉書院）
- 内田賢徳 「『ゴト』と『ゴトシ』―直喩の述語」（『帝塚山学院大学研究論集』第十一集）
- 内田賢徳 「比喩事典」（稲岡耕三編『万葉集事典』平成四年 学燈社）
- 内田賢徳 「歌の中の漢字表現」（『萬葉』一六一 平成九年五月）
- 内田賢徳 「漢字表現の応用と内化」（『萬葉集研究 一二』平成九年 塙書房）
- 大久保正 『萬葉の伝統』（『枕詞・序詞の研究について』昭和三三年 塙書房）
- 大塚龍夫 『枕詞辞典』昭和一九年 風間書房
- 大浜巖比古 「万葉集序詞私攷」（『天理大学学報』第二卷第一・二号 昭和二五年一月）
- 大浜巖比古 『新萬葉考』（『万葉集の序詞について』昭和五四年 書肆大地）

- 岡崎義恵 『日本詩歌の象徴精神 古代篇』昭和二五年 羽田書店〔昭和四五年 宝文館出版〕
- 沖森卓也・佐藤信・平沢竜介・矢嶋泉 『歌経標式 注釈と研究』平成五年 桜楓社
- 澤瀉久孝 『萬葉の作品と時代』（「枕詞を通して見たる人麻呂の独創性」）昭和一六年 岩波書店
- 折口信夫 『日本文学の発生 序説』昭和二二年 斎藤書店〔『折口信夫全集 七』昭和三〇年、昭和四一年 中央公論社〕
- 折口信夫 「日本文学の発想法の起り」（『古代研究 国文学篇』昭和四 大岡山書店）〔『折口信夫全集 一』昭和一九年、昭和四〇年 中央公論社〕
- 風巻景次郎 「葦が散る難波」（「萬葉」一三三 昭和二九年一〇月）
- 片桐洋一 『古今和歌集の研究』（「歌枕の成立―古今集表現研究の一部として」）
- 片桐洋一 「概説 歌枕 歌ことば」（『歌枕歌ことば辞典』昭和五八年 角川書店）
- 楫取魚彦 『続冠辞考』明和七年自序〔『賀茂真淵全集 二』 明治三六年 弘文館〕
- 金井清一 「『天爾滿』―人麻呂枕詞考」（「古典と現代」五四号）
- 金子武雄 『称詞・枕詞・序詞の研究』昭和四七年 新塔社〔昭和五二年 公論社〕
- 鹿持雅澄 『萬葉集枕詞解』文政五年〔『萬葉集古義 八』昭和三年 名著刊行会〕
- 賀茂真淵 『冠辞考』宝曆七年〔『賀茂真淵全集 八』 昭和五三年 続群書類従完成会〕

- 川島二郎 「『露霜の置きてし来れば』考」(「山邊道」第三五号)
- 川島二郎 「石見相聞歌の前奏部について」(「山邊道」第四〇号)
- 清原和義 『万葉の歌人 笠金村』(第二部 第二一、笠金村考―卷十三の受容をめぐる) 平成三年 和泉書院
- 倉野憲司 「枕詞管見」『上代日本古典文学の研究』昭和四三年 桜楓社
- 契 沖 『詞草正採抄』貞享四年(『契沖全集 一〇』昭和四八年 岩波書店)
- 契 沖 『萬葉代匠記惣釈 枕詞(精撰本)』元禄三年(『契沖全集 一』昭和四八年 岩波書店)
- 興膳宏 『弘法大師空海全集 第五卷』昭和六一年 筑摩書房
- 神野志隆光 『柿本人麻呂研究』(「石見相聞歌」) 平成四年 塙書房
- 小島憲之 『上代日本文学と中国文学 上』昭和三七年 塙書房
- 小島憲之 『上代日本文学と中国文学 中』昭和三九年 塙書房
- 小島憲之 『上代日本文学と中国文学 下』昭和四〇年 塙書房
- 小島憲之 「万葉語の表現―そのあととさきと―」(「文学」三九卷二号)
- 小島憲之 『古今集以前』(第一章三) 昭和五一年 塙書房
- 小西甚一 『文鏡秘府論考 研究篇下』昭和二六年 講談社

- 小西甚一 「序と枕詞の説」 (『石井生司博士 高野記念論集』 上代文学考究) 昭和五三年 塙書房)
- 駒木 敏 「序詞・枕詞」 (『国文学 解釈と教材の研究』 昭和六〇年一月)
- 駒木 敏 「枕詞と地名の始原―主として『風土記』について―」 (『同志社国文学』 二六 昭和六一年三月)
- 駒木 敏 「枕詞―その始原性から和歌的修辭法への位相―」 (『論集 和歌とレトリック』 昭和六一年 笠間書院)
- 近藤信義 『枕詞論―古層と伝承―』 平成二年 桜楓社
- 西郷信綱 『古代の声―うた・踊り・市・ことば・神話―』 昭和六〇年 朝日新聞社
- 境田四郎 「萬葉集の序詞について」 (『国語国文の研究』 二二 昭和三年六月)
- 境田四郎 「枕詞と序詞」 (『萬葉集大成 六』 昭和三〇年 平凡社)
- 阪倉篤義 「比喩的枕詞―体言に『の』の添はりたるものについて―」 (『国語・国文』 昭和一五年十二月)
- 阪下圭八 『初期万葉』 (『大津皇子―辞世歌―一首の世界』) 昭和五三年 平凡社
- 坐光寺為祥 『和歌詞語』 安永九年自序 国立国会図書館蔵
- 佐竹昭広 「無常―『万葉集』再読」 (『日本文学と仏教』 岩波書店)
- 島田良二 「古今集の枕詞」 (『茨城大学人文文学部紀要 文学科論集』 第三号 昭和四四年十二月)
- 清水克彦 『萬葉論集』 (『かみかぜや―地名の歌語化に就いて―』) 昭和五〇年 桜楓社

- 下河辺長流 『枕詞燭明抄』寛文一〇年（『契沖全集一〇』昭和二年朝日新聞社）
- 白井裕子 「枕詞の消長」（『国文目白』昭和四〇年一〇月）
- 新村 出 「奈良七重」『奈良叢記』昭和一七年（『新村出全集一二』昭和四八年三月 筑摩書房）
- 鈴木日出男 「人麻呂表現論序説」『論集上代文学八』昭和五二年 笠間書院
- 平舘英子 「記紀歌謡における枕詞の性格」（『東京成徳短期大学紀要』九 昭和五一年四月）
- 平舘英子 『萬葉歌の主題と意匠』（第二章第一節）平成一〇年 塙書房
- 高木正一 『鍾磬詩品』昭和五三年 東海大学出版会
- 滝沢貞夫 「拾遺集時代の枕詞」（『国語と国文学』昭和四八年一月号）
- 武田祐吉 「特殊の修辭」（『増訂萬葉集全註釈二』昭和三二年 角川書店）
- 武田祐吉 『武田祐吉著作集 八』（『国文学研究 歌道篇』昭和四八年 角川書店）
- 陳 伯君 『阮籍集校注』一九八七年 中華書局
- 土橋 寛 『古代歌謡論』昭和三五年 三一書房
- 土橋 寛 『萬葉集の文学と歴史』（Ⅲ 一人麻呂における伝統と創造）昭和六三年 塙書房
- 豊田八十代 『萬葉二十六考』昭和一〇年 大岡山書店
- 直木孝次郎 『飛鳥奈良時代の研究』（「やまと」の範圍について—奈良盆地の一部としての—）

昭和五〇年 塙書房

中島頼重 『枕詞集成』昭和五二年 条例出版

中西 進 「万葉集の連合表現」(『萬葉集研究 二』 昭和四八年 塙書房)

芳賀紀雄 「掌中の愛―恋男子名古日歌―」(『国語と国文学』昭和五十八年八月号)

芳賀紀雄 「天平万葉の流れ」(『和歌史』昭和六〇年 和泉書院)

芳賀紀雄 「万葉集における花鳥の擬人化―詠物詩との関連をめぐって―」(『記紀萬葉論叢』塙書房)

芳賀紀雄 「山上憶良―老身重病経年辛苦及思児等歌―」(『萬葉』一三九 平成三年七月)

芳賀紀雄 「家持の春愁の歌」(『萬葉の風土・文学』大養孝博士
東洋記念論集 塙書房)

橋本四郎 「上代の形容詞語尾ジについて」(『橋本四郎論文集 国語学編』昭和六一年 角川書店)

橋本達雄 「万葉集の作品と歌風」(『枕詞と喩法』) 平成三年 笠間書院

橋本達雄 「万葉集枕詞一覽」(『萬葉集事典』昭和五〇年 有精堂)

服部高保 『続冠辞考』安永四年 (『賀茂真淵全集 二』 明治三六年 弘文館)

林 勉 「枕詞とは何か―問題を考えつくまに」(『国文学 解釈と鑑賞』昭和四一年一〇月)

林 勉 「和歌の修辞 Ⅰ」(『和歌文学講座 一』 昭和四四年 桜楓社)

広岡義隆 「あかねさす紫野く枕詞における被枕摂取と隔語修飾について」(『蒲生野』第二六号)

- 福井久蔵 『枕詞の研究と釈義』昭和二年 不二書房（山岸徳平補訂、昭和三五年 有精堂）
- 本田義憲 「竹取翁歌拾遺」（『澤瀉博士
萬葉學論叢』昭和四一年 澤瀉博士喜寿記念論文集刊行会）
- 真下和子 「三代集の枕詞」（『女子大文学』一六 昭和三九年一月）
- 増井元 『万葉集の枕詞―枕詞表現へのアプローチ―』（『萬葉集講座 三』 昭和四八年 有精堂）
- 増井元 「和歌様式の構造」（『古代の文学四 想像力と様式』昭和五四年 武蔵野書院）
- 増井元 「方法としての枕詞」（『国文学 解釈と教材の研究』昭和五八年五月）
- 松田芳昭 「万葉長歌における枕詞の位相と機能」（『国文学攷』二二 昭和三五年五月）
- 松田好夫 『萬葉研究 新見と実証』昭和四三年一月 桜楓社
- 身崎 壽 「修辭論―山上憶良の修辭意識―」（『うたの発生と万葉和歌 和歌文学論集1』平成五年十月 風間書房）
- 村田正博 「人麻呂の技法―近江荒都歌をめぐる―」（『人文研究』三五卷三号 昭和五八年一〇月）
- 森三溪編 『枕詞』明治三五年 私刊
- 森重 敏 「万葉集の修辭」（『萬葉集講座 三』 昭和四八年 有精堂）
- 森重 敏 『続 上代特殊仮名音義』昭和六二年 和泉書院
- 八木 毅 「高橋連虫麻呂における枕詞の使用」（『ばんせ』一三 昭和二六年七月）

山口 正 『万葉修辭の研究』昭和三九年 武蔵野書院

吉井 巖 『天皇の系譜と神話二』昭和五一年六月 塙書房

吉井 巖 『萬葉集への視角』（「越中守家持の作品をめぐって」）平成二年 和泉書院

吉本隆明 『初期歌謡論』昭和五二年 河出書房新社